

## 令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費  
6項 社会教育費  
4目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8042）  
→事業実施：美術館整備局美術館整備課  
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
鳥取県立美術館整備推進事業	165,746	39,977	125,769				165,746	
トータルコスト	189,356千円（前年度 63,791千円）〔正職員：3人〕							
主な業務内容	PFI等事業（美術館整備運営事業）、デジタルアーカイブ化調査研究、美術ラーニングセンター検討、「県立美術館」啓発事業							
工程表の政策目標（指標）	未来を「つくる」県立美術館整備による文化芸術の創造・発展							

## 事業内容の説明

## 1 事業の目的、概要

鳥取県立美術館をPFI手法により効果的・効率的に整備・運営するとともに、「未来を『つくる』美術館」をコンセプトに掲げた県立美術館の開館に向けて、美術館活動の効果を先行して波及させ、県民と連携した美術館づくりを行う。

## 2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	予算額	事業内容
(1) PFI等事業（美術館整備運営事業）（新規）	158,219	○整備・運営経費（143,164千円） PFI事業契約に基づき事業者を支払うサービス対価（債務負担行為設定済） ○円滑推進事業（15,055千円） PFI事業を円滑に導入・推進するための外部アドバイザーへの委託料及び外部専門家への相談にかかる経費
(2) 「美術ラーニングセンター（仮称）」機能の充実に向けた検討事業	3,625	○デジタル鑑賞教材の学校授業活用、小学生のバス招待、美術大学生による黒板ジャック、夏休み子ども企画展の開催等により美術に触れる機会の創出 ○小学校の新規採用教員研修での専門講座の開催 ○鳥取看護大学・短期大学との連携協定による大学授業での博物館（美術館）活用、対話型鑑賞ファシリテーター養成研修等の実施
(3) 「私たちの県立美術館」普及啓発事業	3,902	○「アートの種まきプロジェクト」として、美術館づくりを伝えるフリーペーパーの発行、アート系ワークショップの開催 ○地域団体等の活動支援 ○芸術・文化関係者とディスカッションを行う「ミュージアム・サロン」の開催 ○県立博物館の美術コレクションの展示・解説等を行う「コレクション宅配」の開催
(4) 美術館等協力連携推進事業	※別事業に計上	○鳥取県ミュージアムネットワーク加盟の美術系文化施設の学芸員研修会、共同企画展の実施
(5) 美術部門アーカイブ資料整理員の配置（新規）	※人件費に計上	○美術図書資料、アーカイブス資料の移管作業に向けた整理を行うための非常勤職員の配置（5年計画） （司書資格を有する会計年度任用職員）
合計	165,746	

## 3 これまでの取組状況、改善点

平成30年7月に鳥取県立美術館の整備基本計画を策定するとともに、「県有施設・資産有効活用戦略会議」におけるPFI・BTO方式を導入するとの検討結果を踏まえ、PFI事業者選定作業に着手した。その後入札手続を実施し、令和2年1月に落札者を決定した。

〈参考〉

令和2年3月 本契約・指定管理者の指定（議会議決）  
令和2年4月～令和3年 PFI民間事業者による基本設計・実施設計  
令和3年～令和5年 PFI民間事業者による建設工事（乾燥期間を含む。）  
令和6年度 開館

令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費  
6項 社会教育費  
3目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8044）  
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
美術館・博物館等ネットワーク強化推進事業	879	1,202	△323				879	
トータルコスト	5,601千円（前年度 5,965千円）〔正職員：0.6人〕							
主な業務内容	T.M.N.への補助業務、T.M.N.事務局としての指導員と加盟館等との連絡調整及び進捗管理							
工程表の政策目標（指標）	博物館機能の充実							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

鳥取県ミュージアム・ネットワーク（以下「T.M.N.」という。\*）が実施する、県内の美術館・博物館等における具体的な協力連携の取組、各館の歴史民俗資料の保存活用機能を向上させる取組を支援することにより、県内の博物館等の連携基盤を確立してネットワークの強化を図る。

\* 県内の博物館、美術館、歴史民俗資料館、考古資料館等の相互連携を密にし、博物館等の運営や事業の発展と向上を図ることを目的として平成15年に設立。県立博物館内に事務局を置き、鳥取市歴史博物館、倉吉博物館、米子市美術館、渡辺美術館等県内の公私の52施設が加盟している。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区 分	予算額	事業内容
T.M.N.への補助金交付	879	T.M.N.が加盟館を対象にして実施する次の事業に補助する。 1 美術館等協力連携推進支援事業 平成29年度に策定した「T.M.N.美術館等協力連携計画」に掲げた方針を具現化する取組。 （1）加盟館学芸員による専門部会（会議）の開催 （2）加盟館学芸員の資質向上を目的とした研修会の開催 （3）（新）共同企画展の開催 2 博物館資料アドバイザー派遣事業 平成29年度に博物館資料アドバイザーに委嘱した外部の歴史・民俗研究者や専門家を、希望のある歴史民俗資料館等に派遣し、資料の保管・展示改善の指導等を実施する。 ○アドバイザーの謝金及び旅費等 T.M.N.がアドバイザーに支払う謝金等の1/2支援

3 これまでの取組状況、改善点

T.M.N.は、加盟館職員の研修や加盟館相互利用者への入館料減免等を実施し、各館相互のネットワーク機能を高めてきたが、近年の地域の過疎化、高齢化等に伴う古文書等の散逸・毀損等を防ぎ、地域の美術・歴史等の拠点としての役割をさらに高めるため、県立公文書館や図書館等の取組と連携・協力しながら、T.M.N.が実施しようとする各館の資料保存・活用及びネットワークの機能を高めようとする取組の支援を平成29年度から始めており、取組の充実や実効性を高めるため、引き続き支援する。

令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費  
6項 社会教育費  
3目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8042）  
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
企画展開催費	〔債務負担行為〕 90,000	〔債務負担行為〕 88,000	〔債務負担行為〕 2,000			<使用料6,225 諸収入4,762> 10,987	〔債務負担行為〕 90,000	
	77,735	85,472	△7,737				66,748	
トータルコスト	144,160千円（前年度 129,131千円） [正職員：5.5人、会計年度任用職員：8.3人]							
主な業務内容	企画展の開催							
工程表の政策目標 (指標)	博物館機能の充実							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

鳥取県の自然・歴史・美術分野の資料、作品、研究成果等や世界的・全国的に貴重な作品等について、企画展として広く県民に紹介する。

2 主な事業内容

(単位：千円)

企画展名(仮称)	予算額	会期(予定)	内容
60's東京オリンピックとその時代	17,489	6月6日～ 7月5日	2020年東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせ、前回の東京オリンピックと高度経済成長期の生活について、昭和家電など当時の資料と併せて紹介する。
こんにちは変形菌、 とってもふしぎな生き ものです。	18,521	7月18日～ 8月30日	植物でもキノコでもない「変形菌」について、そのすがたや生態、ほかの生きものとのかかわりや、理工系の最新技術との接点などを取り上げ、変形菌の魅力について紹介する。
THE フィンランドデザ イン展～自然が宿るラ イフスタイル～	20,688	10月10日～ 11月15日	200年にわたりフィンランドという国を支えたテキスタイル(染織品)の歩みを中心に、フィンランドの人々の豊かな考え方や、彩りに溢れ創造に満ちたデザインの数々を紹介する。
ミュージアムとの創造 的対話03	6,988	11月28日～ 12月27日	「ミュージアム」という場所や従来の枠組みにとらわれず、実験的で多彩な表現を展示室の内外に展開させるシリーズ企画展である。第3回目となる今回は価値の創造者としての「アーティスト」と「コレクター」をテーマに展示を行う。
岡本太郎とクルト・セ リグマン	12,593	令和3年 2月11日～ 3月21日	岡本太郎(おかもとたろう・1911年-96年)と、彼に最も影響を与えた芸術家として知られるクルト・セリグマン(1900年-62年)の作品をともに紹介し、岡本芸術の形成過程を探ると共に、両者の友情が戦後の日本の美術界にもたらした影響の意義について検証する。
令和3年度当初開催企 画展開催準備	1,456	—	令和3年度当初に開催する企画展の開催準備に要する費用である。(チラシ・ポスター等のデザイン委託、印刷経費)
合計	77,735		

※会計年度任用職員の人件費は、教育人材開発課の職員人件費に計上。

3 債務負担行為 令和3年度 90,000千円

企画展名(仮称)	会期(予定)
受贈記念 Kコレクション展	令和3年4月10日～5月9日
QooDZILLA!! 世界のクジラ展	令和3年7月17日～8月29日
とっどりの乱世—因幡・伯耆からみた戦国時代—	令和3年10月9日～11月7日
東郷青児とパリに学んだ画家たち —損保ジャパン日本興亜美術館コレクションを中心に	令和3年11月20日～12月26日
巨匠を夢見た江戸の女性絵師たち	令和4年2月11日～3月27日

4 これまでの取組状況、改善点

- 令和元年度は2つの企画展を報道機関と実行委員会を組んで開催したことにより、コマーシャルや情報番組での生中継など、テレビ媒体を通じて幅広い層に向けた広報が実施できた。
- 今後の入館者増につなげるため、以下の点について力をいれていく。
  - (1) 県外博物館、美術館と連携した巡回展、体験行事を取り入れた企画展等、魅力的な企画展を開催する。
  - (2) マスコミとの連携が可能な企画展については、実行委員会形式により、広報面の強化等を図る。
  - (3) 広報範囲の拡充及び早い時期からの周知開始などにより広報活動を強化する。

令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費  
6項 社会教育費  
3目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8042）  
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳			備考
				国庫支出金	起債	その他 一般財源	
博物館運営費	90,272	99,096	△8,824			<使用料2,095 財産収入870 諸収入1,269> 4,234	86,038
トータルコスト	149,893千円（前年度 135,611千円）〔正職員：4.6人、会計年度任用職員：8.4人〕						
主な業務内容	会計事務、物品管理、施設管理、関係機関との調整、防虫・防菌対策等						
工程表の政策目標 (指標)	博物館機能の充実						

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

利用者に快適な鑑賞環境を提供するために施設の維持管理を行い、来館者サービスの一層の向上につながるよう来館者等からの意見を聞きながら博物館を運営するとともに、博物館が収蔵している約25万点におよぶ資料を害虫やカビ類などから守るための被害調査や防除対策を行う。

2 主な事業内容

(単位：千円)

区分	予算額	内容
管理運営費	78,601	・各種設備等管理・保守等業務委託費 ・博物館運営に係る光熱水費及び施設修繕費 ・鳥取県立博物館振興会（ミュージアムショップ運営）への補助金
博物館協議会開催費	1,007	・委員報酬等
広報等その他事業費	7,884	・各種展示等広報及び企画展図録作成経費 ・図書資料の購入経費
収蔵資料管理費	2,780	・害虫菌類の監視調査及び害虫侵入防止等経費 ・害虫・カビ発生時の殺虫・殺菌等経費
合計	90,272	

※会計年度任用職員の人件費は、教育人材開発課の職員人件費に計上。

3 これまでの取組状況、改善点

- ・博物館の円滑な運営のため、来館者への応接、施設・設備の維持管理等を行っており、来館者の要望等を聞きながらサービス向上に向けて取り組んでいる。
- ・来館者へのアンケートでは、博物館全体に対する満足度はかなり高く、好評を得ている。
- ・今後の広報活動について、範囲を拡充するとともに、より早い時期から実施していく。
- ・日常的な温湿度管理、害虫等の監視や侵入防止に努めるとともに、温湿度等のモニタリング結果を踏まえた毎月の対策会議の開催や定期的な館内一斉清掃等により、薬剤のみに頼らずに博物館資料の保全環境の維持・向上を図っている。
- ・引き続き現在の取り組みの維持・充実に努めるとともに、さらに効果の高い取組等を積極的に導入し、収蔵資料を的確に保全・管理していく。

令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費  
6項 社会教育費  
3目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8042）  
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
博物館交流事業	1,321	2,318	△997				1,321	
トータルコスト	3,682千円（前年度 4,699千円）【正職員：0.3人】							
主な業務内容	連絡調整等							
工程表の政策目標（指標）	博物館機能の充実							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

中国、韓国、ロシアの博物館（河北省博物院、国立春川博物館、アルセーニエフ名称沿海地方国立博物館）との交流や情報交換等を行う。

令和2年度は、新たにモンゴル国中央県立博物館を訪問し、交流の可能性等についての意見交換を行う。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	予算額	事業内容
中国河北省博物院	515	河北省博物院を訪問し各館の活動内容や調査研究、特に歴史・民俗分野の交流や今後の交流展の可能性などについて意見交換等を行う。 〔平成10年6月 友好交流館として協定締結〕
韓国江原道国立春川博物館	231	国立春川博物館の職員を受け入れ、今後の両館相互の博物館交流、特に美術分野について意見交換等を行う。 〔平成22年12月 友好交流及び協力に関する協定締結〕 〔平成23年12月 職員相互派遣に関する合意書締結〕
ロシアアルセーニエフ名称沿海地方国立博物館	575	アルセーニエフ名称沿海地方国立博物館を訪問し、今後の両館相互の博物館交流、特に普及啓発活動について意見交換等を行う。 〔平成22年9月 友好交流及び協力に関する協定締結〕
モンゴル国中央県立博物館	標準事務費で対応	当館との交流希望のあるモンゴル国中央県立博物館を訪問し、交流の可能性等についての意見交換を行う。
合計	1,321	

3 これまでの取組状況、改善点

- 中国河北省博物院とは、20年にわたって相互交流を行い、良好な関係を築いてきており、鳥取県と河北省の友好交流の一端を担っている。  
鳥取県立博物館・中国河北省博物院交流20周年記念展として、平成30年度は、河北省博物院所蔵の民芸品（武強年画、切絵細工、紙芝居）を当館で展示し、令和元年度は、「因州和紙展」を12月～2月にかけて、河北省博物院で開催した。
- 韓国江原道国立春川博物館とは、平成22年度に「友好交流及び協力に関する協定」を締結し、交流を再開して以来、職員の相互派遣を続けており、美術分野を中心とした、今後一層の交流促進が期待されている。
- ロシアアルセーニエフ名称沿海地方国立博物館とは、平成22年度に「友好交流及び協力に関する協定」を締結し、以来、受入・派遣を重ねて良好な関係を築いており、子どもたちへのワークショップの手法等について情報交換するなど、教育普及分野での交流が深まりつつある。

令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費  
6項 社会教育費  
3目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8044）  
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
自然事業費	6,173	10,242	△4,069				6,173	
トータルコスト	34,572千円（前年度 33,262千円）〔正職員：2.9人、会計年度任用職員：2人〕							
主な業務内容	自然に関する資料の収集、展示、保存、調査研究							
工程表の政策目標（指標）	博物館機能の充実							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

自然部門（地学・動物・植物）の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	予算額	事業内容
自然事業費	6,173	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然資料（標本・剥製など）の収集、製作、修復等</li> <li>自然事業および展覧会開催に関する調査研究</li> <li>常設展示室（地学・生物）の運営、維持管理、展示更新</li> </ul>

※会計年度任用職員の人件費は、教育人材開発課の職員人件費に計上。

3 これまでの取組状況、改善点

- ・新しく収集した資料及び調査研究の成果を常設展示の展示替えに反映させるとともに、移動博物館等にも利用し、広く県民に紹介した。
- ・貴重な寄贈資料の整理及び調査を順調に進めており、引き続き、収蔵資料の整理と充実を図っていく。

令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費  
6項 社会教育費  
3目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8044）  
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
人文事業費	12,268	22,052	△9,784				12,268	
トータルコスト	56,901千円（前年度 53,010千円）〔正職員：3.9人、会計年度任用職員：5人〕							
主な業務内容	考古・歴史・民俗に関する資料の収集、展示、保存、調査研究							
工程表の政策目標（指標）	博物館機能の充実							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

人文部門（考古・歴史・民俗）の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、藩政資料の整備、修復・情報発信を行う。  
あわせて、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	予算額	事業内容
資料収集研究費	4,433	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料（考古・歴史・民俗）の収集、修復及び企画展の調査研究</li> <li>鳥取県に関わる貴重な歴史資料等の購入</li> <li>（臨）明治維新の一級史料「安達清風文書」整理・研究事業 当館に寄託された、明治維新を語る上で第一級の文書史料群を3年計画で整理・研究し、活用する。 （3年計画（H31～R3）の2年目）</li> </ul>
常設展示費	999	<ul style="list-style-type: none"> <li>常設展示室（歴史・民俗）の運営、維持管理、展示更新等</li> <li>常設展示室の一部展示替え及び普及事業等で県内の歴史・民俗事象に関する最新の成果・知見を紹介するための調査を実施する。</li> </ul>
藩政資料活用事業費	6,836	<ul style="list-style-type: none"> <li>池田家文書の補修、複本製作 （第2次16年計画（H17～R2）の16年目）</li> <li>古文書ボランティアによる「町奉行日記」の解説内容を校訂しホームページへ公開するなど、鳥取藩政資料の活用・デジタル発信を行う。</li> </ul>
合計	12,268	

※会計年度任用職員の人件費は、教育人材開発課の職員人件費に計上。

3 これまでの取組状況、改善点

資料の収集・保存や調査研究を推進して展示の充実を図っており、そうした対応を一層強化して魅力ある展示や資料出版等を実施することにより、成果を県民に紹介・還元していく。

令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費  
6項 社会教育費  
3目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8045）  
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
美術事業費	15,730	16,638	△908				15,730	
トータルコスト	44,030千円（前年度 41,246千円）〔正職員：3.1人、会計年度任用職員：1.4人〕							
主な業務内容	美術に関する資料の収集、展示、保存、調査研究							
工程表の政策目標（指標）	博物館機能の充実							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

美術部門（絵画・彫刻・工芸・写真等）の資料の収集・修復、調査研究及び常設展示を行うとともに、資料収集・調査研究等を推進し、新たな知見や発見を分かりやすい形で展示等に反映する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	予算額	事業内容
資料収集研究費	11,317	・美術事業や展覧会に関する調査研究 ・郷土の美術作家に関する調査研究 ・保存、展示のための資料修復 ・画廊、作家遺族、作家等からの情報収集及び資料収集 ・美術品収集に係る収集評価委員会の開催
常設展示費	4,413	・近世及び近代美術資料の展示公開
合計	15,730	

3 これまでの取組状況、改善点

- ・近年の来館者のニーズを踏まえつつ、新たな視点を加えた展示等を企画・実施しており、令和元年度の夏休み企画展示「アートとの遭遇」では、来館者が作家と同じテーマで表現できる制作ブースを設けたり、県民の方が講師となって連日ワークショップを開催するなど、表現や鑑賞を体験的に味わい、アートをより身近に感じていただく試みを実施した。
- ・引き続き、資料収集・調査研究等を推進し、県民に新たな知見や発見を提供するためにより効果的な展示等を実施する。



令和2年度一般会計当初予算説明資料

10款 教育費  
6項 社会教育費  
3目 博物館費

博物館（電話：0857-26-8044）  
（単位：千円）

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
博物館普及事業費	10,011	13,004	△2,993				10,011	
トータルコスト	37,196千円（前年度 37,612千円）〔正職員：3.1人、会計年度任用職員：1人〕							
主な業務内容	生涯学習支援、学校教育支援、情報発信							
工程表の政策目標（指標）	博物館機能の充実							

事業内容の説明

1 事業の目的、概要

県民の生涯学習や学校教育を支援するために、各種の講座や体験学習会、移動博物館などを実施するとともに、博物館の活動、研究成果、利用方法などについて広く情報を発信する。

2 主な事業内容

（単位：千円）

区分	予算額	事業内容
生涯学習支援	5,316	・館内外で各種講演会、ワークショップ、観察会等を開催するとともに、博物館の資料や作品を県内各地で見学・鑑賞していただく移動博物館・移動美術館を開催する。
学校教育支援	723	・博物館資料の館内外での活用を促進すると共に、博物館の持つ専門知識や情報を学校教育活動やその対象となる児童生徒に提供する。 ・博物館と学校との連携推進に関連し「教員のための博物館の日」の開催及び「学校向け貸出し教材」を整備する。
情報発信	3,972	・ホームページ・SNS等を通して、生涯学習支援、学校教育支援、博物館の収蔵品に関する情報を広く発信する。
合計	10,011	

※会計年度任用職員の人件費は、教育人材開発課の職員人件費に計上。

3 これまでの取組状況、改善点

- ・「学校の先生向け講座」等に加え、平成26年度より「教員のための博物館の日」を開催している。その他、自然・人文・美術の各分野において、各学芸員の専門性や県民の要望を踏まえつつ、低年齢層から高齢者までを対象とした、より効果的な教育普及講座を編成・実施している。
- ・普及活動への参加者増に向けた広報を強化するため、広報対象を特化するなど広報戦略を検討し、ホームページだけでなく、特にSNS・チラシ・ポスターに重点を置いた広報に力を入れている。